

南アでインダバ2008が開催 最大のテーマはワールドカップ



インダバ会場でもワールドカップを強調



アフリカのトレードショーらしいパフォーマンスも



インダバは毎年インド洋沿岸の都市ダーバンで開催される

アフリカ最大のツーリズム・トレードショー INDABA2008が5月10日、南アフリカのダーバンで開催された。最大のテーマは2010年に控えたFIFAワールドカップ。会場となった国際ナショナル・コンベンション・センター(ICC)の入り口に2010年ワールドカップ開幕日までのカウントダウン・ボードが設置されるなど、南アの観光産業が大会に寄せる期待は大きい。



ワールドカップへ向けたカウントダウンが早くも始まっている

W杯を契機に2010年には1,000万人目標

INDABA2008の参加者は昨年の12,000人を上回る約13,500人(登録ベース)。およそ1,800社の観光関連企業・団体が出席し、世界中からバイヤーとメディアが集まった。日本からも大手旅行会社のアフリカ担当者、アフリカ専門旅行社、メディアなど25人が参加。2010年のワールドカップ開催に向けた南アフリカ観光への期待の高さを伺わせた。

オープニング・セレモニーで南アフリカのリジョイス・マブダフシ観光環境副大臣は「ワールドカップは南アフリカにとって、単なる国際的なスポーツイベントだけでなく、多大な経済的効果をもたらすうえでの大きなきっかけになる」とコメント。南アフリカ観光局(SAT)のモケツィ・モソラCEOも過去に開催したラグビーやクリケットなどのワールドカップを例に挙げ、ワールドカップ開催に自信を示し、この世界的ビッグイベントが南アフリカや周辺諸国の観光産業に与える影響の大きさを強調する。



インダバの基調講演でワールドカップへの期待を語るリジョイス・マブダフシ観光環境副大臣



「南アの観光産業は成長し続けている」と自信を示す南アフリカ観光局のモケツィ・モソラCEO

2007年の南アへの外国人渡航者数はおよそ900万人。これを、ワールドカップが開催される2010年までに1,000万人にする目標を掲げる。そのうち日本人渡航者数は現在のおよそ3万人から5万人に増やしたい考えだ。マブダフシ副大臣は「ワールドカップの開催期間中、観光に訪れた多くの外国人が南アを観光するだろう」と語り、ワールドカップによって南アフリカの観光にも注目が集まるこ

とに期待感を示す。FIFA大会組織委員会(LOC)が予想する期間中の外国人訪問者数はおよそ45万人だ。

一方、大会に向けて、また同時に観光の推進において多くの課題が残っているのも事実だ。その中でも最大の懸念は治安の問題。1994年の民主化後、治安状況には大分改善が見られるものの、それによるマイナスのイメージはまだ完全に払拭できていない。モソラCEOは、その犯罪率の低下は観光産業にとって重要課題であることを認識すると同時に、国を挙げてこの問題に取り組んでいることを強調した。

また観光各分野でのサービスレベルの向上もテーマのひとつ。モソラCEOは観光産業に携わる人々のサービススキルを向上させれば、南アフリカ自体のイメージアップにもつながるとして、サービス教育を充実させていく必要性を指摘する。

さらに、航空政策では南アフリカはオープンスカイを目指しているが、まだ実現に至っていない。2010年に向けて、また観光推進においても一刻も早い航空の自由化が待たれているところだ。

しかし、さまざまな課題を抱えつつも、2007年の南アフリカの観光産業は前年比8.3%の成長率を達成。世界平均の6.1%の成長率を上回った(世界観光機構による統計)。

モソラCEOは「ワールドカップに向けた交通・通信インフラ整備をはじめ、さまざまな面で改善が進められており、我々は十分な開催能力があるという点において楽観的だ」とコメント。ネルソン・マンデラ元大統領の「我々が直面している問題に克服できないものはない」という言葉を引用し、今後の観光産業の発展に自信を示す。ワールドカップに向けた改善は、観光サービスの向上にもつながるだけに、SATとしても政府の取り組みに積極的に関与していく。

W杯に向けた準備も着々と進む

2010年のFIFAワールドカップは9都市(ヨハネスブルグ、プレトリア、ケープタウン、ダーバン、ポートエリザベス、ブルームフォンテン、ネルスプロイト、ポロクワネ、ルステンブルク)10会場で行われる。そのうち、5つのスタジアムが新設。すでに4つのスタジアムで改修を含めた準備が整った。2009年10月にはすべてのスタジアムが完成する予定だ。

FIFA大会組織委員会CEOのダニー・ジョーダン氏は「イタリア、フランス、日本などメジャーな国にぜひ出場してほ

しい。そうすれば、観光へのインパクトも大きくなるはずだ」と語る。

期間中の宿泊供給面に対する心配も聞かれるが、ジョーダン氏は「南アフリカは1ヶ月に75万人を受け入れた実績がある。45万人の訪問者を受け入れられないことなどあるだろうか」と自信を示し、南アフリカはまだワールドカップに向けて準備不足という懸念を一蹴した。

現在、ヨハネスブルグ、ケープタウン、ダーバンなど主要空港の拡張工事も進行中。ゲートウェイでの受け入れ態勢も着々と進めているところだ。

ハイシーズンにヨハネービクトリア滝のアクセス改善

ゾレルワ・ムコゾSATアジア豪州地区統括本部長は日本のメディアとのインタビューの中で日本から南アフリカへのアクセスについて、「大韓航空がソウル-ヨハネスブルグ線の開設を計画していると聞いている。これが実現されれば、日本からのアクセスもさらによくなるだろう」と語った。大韓航空は、成田、関西、中部などの主要空港に加えて地方空港とソウルを結ぶ路線を数多く持っているため、同航空が南ア線を開設すれば、日本と南アフリカの路線ネットワークもまちがいに広がることになる。

また、プリティッシュ・エアウェイズ系列のコムエアーが今年10月に、ヨハネスブルグとビクトリア滝を結ぶ路線において増便を予定していることも明らかにした。同便は日本発の香港-ヨハネスブルグ便との接続も可能なため、日本人旅行者にとってはビクトリア滝へのアクセスがさらに改善されることになる。

ビクトリア滝を含む南アフリカへの日本人観光客は特に10月がピーク。ヨハネスブルグとビクトリア滝を結ぶ路線のキャパシティが足りない状況が続いており、SATによると、昨年供給不足を理

由にキャンセルされたツアーは三桁にのぼるといふ。

増便期間はハイシーズンの今年10月いっぱい予定だが、今後の需要次第では運航期間延長の可能性もあるようだ。

このほか、ムコゾ本部長は「近年、中国人の海外渡航者数が増加傾向にあるなか、南アフリカでも中国マーケットが成長しているが、日本は引き続きアジアで最も重要な市場であることに変わりはない」と述べ、「日本人旅行者の増加のためには日本の旅行業界やメディアとのパートナーシップが不可欠」と強調。今後もセミナーやイベント、業界やメディアを対象にしたファムツアーなどを企画し、積極的なプロモーションを展開していく考えを示した。



南アフリカ観光局のブラッドリー・ブラウワー(左)と同局ゾレルワムコゾアジア豪州地区統括本部長(右)

南部アフリカワークショップ2008開催

〈大阪〉セミナー参加者全員に南ア産ワインをプレゼント!
〈東京〉南アへの無料航空&宿泊券が当たる抽選会を開催!

南アフリカ観光局(SAT)の主催「南部アフリカワークショップ2008」が、6月に大阪と東京で開催される。ワークショップ前にはSATによるデスティネーション・セミナーを開催し、最新の観光情報や現在展開中の「Picture Perfect～究極の被写体～フォトコンテスト」キャンペーン情報等を提供。

各会場の開催日程は以下の通り。

【大阪】6月12日(木) 会場 ヒルトン大阪 4階「金の間」

セミナー 15:00~15:45
ワークショップ 15:45~18:00

【東京】6月13日(金) 会場 ホテルニューオータニ アーケード階(地下1階)

セミナー 13:00~13:45「麗の間」
ワークショップ 13:45~17:30「悠の間」
レセプション 18:00~21:00「麗の間」

参加申し込みは、氏名、会社名、部署名、連絡先、希望会場、プログラム名を明記の上、南アフリカ観光局へファックスする。

(TEL: 03-3478-7601 / FAX: 03-3478-7605)



パネルディスカッションでワールドカップの準備状況を語る FIFA大会組織委員会CEOのダニー・ジョーダン氏(左)